

2017年5月 会報 92号 第2回例会	歴史探訪 『黄金の日々』堺を巡る ～ちん電車に乗ってみよう～	東大阪文化財を学ぶ会 会長 南 光 弘 06-6777-2137
----------------------------	--------------------------------------	--

5月21日(日) 小雨決行

1. 集合時刻 午前8時45(時間厳守)一日券を購入しておいてください。
2. 集合場所 阪堺線天王寺駅 改札口 ※集合場所は阪堺線、“ちん電”天王寺駅です。
3. 費用 妙国寺360円+南宗寺400円+ちん電一日券600円
4. 昼食 おにぎりなどの軽食を用意して下さい。ザビエル公園の周辺には適当な食堂はありません。また、雨天の場合は公園では食事ができません。宿院頓宮周辺には食堂、カフェがあります。
5. 申し込み 奮ってご参加下さい。事前申し込みは不要です
6. 持ち物 懐中電灯、水筒など
7. 行程 徒歩約4km 解散予定 午後4時頃 <<→徒歩で移動 ⇒ちん電で移動>>

阪堺線天王寺駅⇒住吉大社⇒南宗寺⇒千利休屋敷跡⇒利晶の杜・歌碑⇒宿院頓宮⇒開口神社⇒ザビエル公園(昼食・弁当)⇒妙国寺⇒本願寺堺別院⇒覚應寺⇒鉄砲鍛冶屋敷・堺鉄砲館⇒水野鍛錬所⇒阪堺線天王寺駅前
※なお、雨天の場合 コースなどを変更します。集合時刻、場所は変わりません。

「黄金のまち」と世界から注目を集め、戦国時代に繁栄を極めた堺。堺港が天明船の発着港になったのをきっかけに、国際貿易が活発になり、多くの豪商が生まれた。彼らは納屋衆(倉庫を貸して倉敷料をとる貿易商人の組織)と呼ばれる組織をつくり、自治を行う自由都市を築きあげた。納屋衆の一人、茶人の千利休は、わび茶を究め、現在の茶道の原型を完成させていった。

堺へは、大阪に唯一残る「ちん電」でまず摂津国一之宮、住吉大社(住吉大社鳥居前)に寄り、その後、大和川を越え近世環自治都市境(堺)南端の南宗寺(御陵前)に向かいます。路面電車が走る大道筋は、かつての紀州街道。街道やフェニックス通りの周辺には、栄華の跡を物語る史跡が点在する。きらびやかな町人文化が花開いた、戦国時代の”黄金の日々”の残像との出会いを「ちん電」に揺られながら楽しみたいものです。

① 住吉大社 摂津国一之宮、住吉神社の総本社

摂津国(大阪府北西部と兵庫県南東部を占める旧国名)の中でも、由緒が深く、信仰が篤い神社として、「一の宮」という社格がつけられ、人々に親しまれてきた。昭和21年までは官幣大社であり、全国約2300社余の住吉神社の総本社でもある。

祭神は、第一本宮 底筒男命 第二本宮 中筒男命 第三本宮 表筒男命 第四本宮 神功皇后
火神の出産で亡くなられた妻・伊弉册尊(日本書紀)を追い求め黄泉の国に行ったが伊弉諾尊が望が叶わず、逆に受けた穢れを清めるために海に入り禊祓した。その時、住吉大神である底筒男命、中筒男命、表筒男命が生まれたという。伊邪那岐命と伊邪那美命は古事記の表記。

第四本宮の祭神、神功皇后は第14代仲哀天皇の妃。新羅遠征と深い関わりがあり、住吉大神の加護により新羅を攻め無事ご帰還を果たした。この凱旋の途中、住吉大神のお告げによって、この住吉の地に祀られることになったという。

<<社殿・住吉造>>

現在ある本殿は全て文化7年(1810)に造られている。第一本宮から第四本宮にいたる4棟の御本殿は「住吉造」と称し、神社建築史上最古の様式の一つといわれている。いずれも国宝建造物に指定されている。

- 1 柱、垂木、破風板は丹塗り、羽目板壁は白胡粉塗り
- 2 屋根は檜皮葺で切妻の力強い直線
- 3 出入り口が直線型妻入式
- 4 屋根には置千木と5本の四角堅魚木、周囲には廻廊ない。
- 5 本殿の周囲には板玉垣、その外に荒忌垣。柱は太い丸柱で礎石造り。柱間は横板張りで、正面より前が外



陣、奥が一段高い内陣と2室ある。心柱はない。

※ <住吉大社の謎・不思議>

- 1つは、第一本宮の前にある「五所御前」と言われる所に1本の神杉が石の玉垣の中に立っている。なぜ「杉」なのか。
 - 2つは、石鳥居は四角柱で、本殿の屋根の上にある五本の堅魚木もなぜか四角。なぜ四角なのか
 - 3つは、生駒山（イコマ「鹿がそこにいる」山・エミシ語）が住吉大社の神奈備山（住吉大社神代記）とされているが、どのような意味があるのか。
 - 4つは、日の神に奉仕する船木氏と尾張氏の同族である津守氏がなぜ住吉大社の大禰宜、大祝（おおほぶり）
 - 5つは、住吉大社の摂社末社に、大海神社、志賀神社、船玉神社、楠珞社、種貸社、大歳社、浅沢社など海神、饒速日命につながる神々なのか。
- 5つの不思議、果たして、如何に解明されるか。

② 南宗寺

織田信長が「天下布武」を掲げて覇を唱える20年前、1529年から1533年までの5年間、堺の町衆の経済力とも深く結びついて力を蓄え「理世安民」（世をおさめ、民をいたわる政治の事）を旗印に天下取りをした戦国武将がいた。それは阿波の三好一族。三好元長とその嫡男、三好長慶は畿内13国を制し事実上の天下人として君臨した。

三好長慶が父・元長の菩提を弔うため、1557年（弘治3）に大林宗套を開山として、今の宿院の少し南東のあたりに建立した南宗寺。三好一族（元長、長慶、義賢、一存）の供養塔がある。臨済宗大徳寺派の寺院で、創建当時は壮大な寺院を造営し、著名な禅僧が来住して自由貿易都市として栄えた堺の町衆文化の発展に寄与した。中でも、千利休の師である武野紹鷗は、大林宗套に参禅して「茶禅一味」の言葉をもらいわび茶を深め、千利休も二世笑嶺和尚に参禅して禅に開眼。日常の俗世を離れて禅の修行に入ったような茶の湯の生活や、知識ではなく体で会得していく茶の湯の方法を確立し、茶人としての素養を深めた。

南宗寺は大坂夏の陣でことごとく焼失したが、その再興に尽力したのが、当時の沢庵和尚。俗論に沢庵漬けの考案者と言われる和尚。沢庵和尚が現在地に再建を果たした後、17世紀中頃には国の重要文化財に指定されている仏殿、甘露門（山門）、唐門が整備された。その仏殿の天井一面には、どこから見ても睨んでいるように見えることからその名の付いた「八方睨みの龍」が描かれ、迫力たっぷり。権力者や寺院の御用絵師として隆盛を誇った狩野信政筆で、昼なお薄暗い仏殿の中にはまさに龍が棲んでいるかのような錯覚に陥る。

※<南宗寺の謎>

「大坂夏の陣の時、真田幸村の奇襲を受けて輿にのって逃げ出した家康。しかし大坂方の猛将・後藤又兵衛は怪しいと睨んで槍でついた。家康はそのまま南宗寺で絶命。しかし死去はふせられ、家康の影武者が活躍。家康の遺体はひそかに日光東照宮へ運ばれ葬られたという」こんな伝説がまことしやかにささやかれる南宗寺。事実、南宗寺史に大坂夏の陣の時、家康は茶臼山に於ける激戦に敗れて網代駕籠に乗って堺に逃げる途中、後藤又兵衛の槍に倒れた。何分戦時中なのですべて秘密にして遺骸を南宗寺開山堂下に隠し徳川の世となつてから、これを久能山に改葬し、更に日光山に移送したという伝説がある。

<<「謎」についての南宗寺、拝観のしおり>>

- A 二代将軍・秀忠が1623年7月10日、一ヶ月後に三代将軍・家光が8月18日に相次いで寺を参詣したという事実は、実は家康の死が起因しているとの説が伝えられている。
大坂夏の陣から8年。復興なった堺のまちを、南宗寺の坐雲亭から視察？それとも、秀忠、家光の将軍交代の時期でもあり、忙しい最中に、将軍職引継ぎの報告をすべき方が、このお寺に眠っていたのか。
- B 三好一族の供養塔の前に開山堂跡がある。三好長慶が開山に迎えた大林宗套和尚、大坂夏の陣で焼失後、現在のこの地で再建された沢庵和尚（三代将軍家光が帰依）のお二人をお祀りしてあったところ。その開山堂の床の下に無銘の墓石がひっそりと眠っていた。卵型の石がその名残で、右側の石板には、江戸時代末期に置かれた「無銘ノ塔／家康サン諾ス／観自在」と刻まれている。
- C 徳川家康の墓がある。
昭和20年7月戦災で焼失した堺東照宮があった。新しいお墓は昭和42年に、水戸徳川家の家老の末裔、三木啓次郎氏が建てたもので、お墓の左側の緑石に建立の経緯が刻まれている。
- D 正面の唐門は将軍とお奉行だけが通る為に造られたもので、その屋根瓦の紋が「三つ葉葵」。徳川家ゆか

りの寺そのものといえる。

E そのお墓の裏へ回ると、発起人のメンバーが書かれている。松下幸之助氏前松下電器会長。大阪で二股ソケットを売っていた時に三木啓次郎氏に助けられたのが縁で、松下電器は一流になれた。TV番組水戸黄門のスポンサーは松下電器（現パナソニック）が独占していた。

F 最後に日光東照宮に家康が狩りや戦いの時に使用したと言われる網代駕籠が保存されている。天井には、槍で突いたとも思われる、謎めいた丸い穴が開いているという。（堺市のボラかティアガイドさんの話）

G さらに、東大阪に影武者伝説がある。番外《家康の影武者は河内、吉田村の矢惣次》という話

『史疑』の幻の家康論を書いた礪川全次は94年に桑田忠親の『戦国史疑』（新人物往来社）をほめている。（231ページ～232ページ）

桑田忠親は、「家康が大阪夏の陣で真田方に討たれ、その死を厳秘にすることにして、その替え玉に選ばれたのが、吉田村（現、東大阪）の百姓、矢惣次であった。

「榊原康勝は（徳川本陣の右備之部隊長）二千数百の軍を率いて、吉田村へ豊臣勢の残党捜しの点検中に66歳の矢惣次が、当時74歳の家康に酷似していることに驚き連れ去った。」という。矢惣次が特訓を受けて家康になりすまし二条城から駿府の城へ移ったが、翌年の4月17日に鯛の油揚げにあたって死んだとされている。「大御所徳川家康・享年75歳にて御他界」という通説を流した。実は矢惣次の67歳の死であったという。

※果たして真実はどこにあるのか。皆さんの考えは如何に。

③ 千利休屋敷跡

わび茶を大成した千利休が生まれた屋敷跡と、茶の湯に常用していたといわれる椿の炭を底に沈めていたという椿井がある。千利休は大永2年（1522）、堺の裕福な町衆魚屋「ととや・姓は田中」の長男として生まれた。17歳の時、北向道陳（きたむきどうじん）に茶湯を学び、後に武野紹鷗（たけのじょうおう）に師事。同じく堺の豪商・今井宗久の推薦で、織田信長や秀吉の茶頭として仕えた。北野の大茶会を取り仕切るなど、天下一の茶匠として権勢を振るったが、天正19年（1591）2月28日、秀吉の怒りにふれ自刃した。享年70歳だった。現在の茶道千家の始祖で、今も茶聖として敬われている。

※現在、井戸屋形が大徳寺の三門（山門）の部材を使って造られているという。利休との関係は、如何に。

④ 利晶の杜・与謝野晶子生家・歌碑

与謝野晶子は菓子商駿河屋の三女として甲斐町に生まれてから、鉄幹に出会い家を出るまで堺ですごした。明治・大正・昭和を短歌とともに生き「情熱の歌人」と呼ばれ、同じ文学者鉄幹の妻であり、11人の子どもたちの母でもあった。

海恋し 潮の遠鳴り 数えつつ 少女となりし 父母の家

⑤ 開口神社



創建は神功皇后によるとされている。奈良時代には開口水門姫神社と称され、海を護る役割をもち最古の国道といわれる竹内街道の西端にあった。

旧市内唯一の式内社で海の神様として知られ、住吉大社の奥の院とされている。昭和39年に本殿が再建され旧市内南荘の氏神として、南北両荘の総氏神として親しまれ、塩土老翁神（しおつちのおじのかみ）、素盞鳴神（すさのおのかみ）、生国魂神（いくたまのかみ）が祀られている。神社の会所は堺の自治の中心を担った会合衆と呼ばれる人々の集会の場としても利用された。

また、行基により念仏寺も建立され通称が「大寺」であったことから、念仏寺が廃寺となった今も堺の人々に「大寺さん」の通称で親しまれているという。

明治時代には、神社境内に現在の堺市役所、大阪府立三国丘高等学校、大阪府立泉陽高等学校、堺市立第一幼稚園などが置かれたこともあった。それぞれの「発祥之地の碑」がある。又、表参道脇に建つ「三好元長戦死跡の碑」があるのは、阿波の武将三好元長が政務を執った顕本寺がこの辺りにあったことからという。

開口神社の社紋を一見したとき「巴紋」か、と思ったが、実はそうではなかった。680年前後に社紋を変えたようだ。

⑥ ザビエル公園

天文19年（1455）、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが堺を訪れた際、堺の豪商・日比屋了慶が彼を手厚くもてなしたという。それにちなんで、昭和24年（1949）、ザビエル来航400年を記念して了慶の屋敷跡につくられた公園を「ザビエル公園」と命名。園内には南国情緒あふれるフェニックスの大木が繁り市民の憩いのスポットになっている。



⑦ 覚応寺

正中山覚応寺といい、伊予の豪族河野通元が覚如上人に帰依し覚応と名乗り、日向の霧島山のふもとに一宇を建て覚応坊と名づけた。数代を経て堺に移り、第5世覚貞は蓮如上人に師事して、坊を改めて覚応寺とした後、現在地に移っている。

当寺の住職河野鉄南は文学仲間の与謝野晶子と鉄幹をひきあわせた人で、境内に与謝野晶子の歌碑がある。

その子はたち くしにながるゝ くろかみの おごりの春の うつくしきかな

第一歌集『みだれ髪』（明治34年8月15日発行）収録の歌。晶子24歳の時である。

⑧ 妙国寺

妙国寺は、永禄4年（1561）、摂津・河内・和泉を支配していた三好義賢が、京都頂妙寺の日珙に東西3丁・南北5丁の土地とソテツの木を寄進したことに始まる。翌年、義賢は久米田（現、岸和田市）の戦いで討死するが、日珙の父で豪商の油屋（伊達）常言と兄の常祐が造営料を寄進し、伽藍の建立が始まった。寺名は、頂妙寺を開いた日祝の号である妙国院にちなむ。1571（元亀2）年には本堂が竣工し、天正11年（1583）までには14の坊や南北の学問所などを備えた伽藍が完成する。大坂夏の陣で焼失後、「元和の町割」より寺地は縮小したが、寛永年間（1624～44）には10坊を数えるほどに再興。しかし、1945年の堺大空襲で伽藍の大半を焼失し、高さ9丈（27.3m）と堺の町の中でも目を引いた三重塔も失った。なお、創建時に寄進されたソテツ（国天然）が、現在も境内に生き続けている。織田信長が安土城に移植させたところ、毎夜「堺に帰りたい」と泣き、怒った信長が刀で斬りつけると、ソテツから鮮血が噴き出したため、気味が悪くなり戻されたという伝説が残る。そのほか、短刀（銘国光、国重文、堺市博物館寄託）や脇指（朱銘長義、国重文）を所蔵する。

《堺事件と妙国寺》

堺事件とは慶応4年（1868）2月15日の夕刻、堺市堺港で起こった土佐藩軍艦府とフランス海軍コルベット乗組員との衝突事件。堺港に上陸し、乱暴を働いたフランス軍艦水兵と同地を警備していた土佐藩兵とが衝突し、水兵11名を死傷させた。

開国和解の方針を明らかにしたばかりの新政府は、フランスの要求をそのまま認め、箕浦猪之吉以下20名の土佐関係者に切腹を命ずることとなった。

23日、堺の妙国寺にて切腹が行われたが、立ち会ったフランス軍艦艦長が切腹の壮烈さに恐ろしくなって11名で中止させた。なお、自刃した11名は北隣の宝珠院に葬られた。

余談として、また堺事件は、司馬遼太郎の短編「侠客万助珍談」（1964年、オール読物）にも取り上げられ、当時の侠客鍵屋万助が、この事件の陰で活躍したことを描いている。妙国寺が切腹した遺体の埋葬を断ったため、北側に隣接する宝珠院に埋葬することを申し出たのが、そこで流行らない賭場を開いていた侠客万助で、そこへの埋葬一切をとりしきったと司馬遼太郎は書いている。

⑨ 鉄砲鍛冶屋敷・堺鉄砲館

鉄砲は、種子島、和泉の堺、紀伊の根来、近江の国友及び日野などが代表的な生産地であったが、堺と国友の鉄砲鍛冶は早くから徳川氏に協力してきた功績によって、大坂の役後に江戸幕府から毎年一定数の鉄砲の納入を義務付けられて幕府の御用を務めることとなった。

江戸時代の鉄砲鍛冶屋敷として唯一現存する井上関右衛門家は、内部は非公開であるが、江戸時代に全国の諸大名の御用をつとめた鉄砲鍛冶の名家である。「堺銃」に関する史料を多く所蔵しており、堺の商人橘屋久三郎が天文12年（1543）にポルトガル人から火縄の製作技術を学び伝えたという。

また、堺での大量生産の基礎になったのは、芝辻清右衛門が紀州の根元に伝わった技術を学び伝えたからだといわれている。今日残る芝辻家の記録によれば、1657（明暦3）年には4千挺以上も製造されていた。井上家には多くの史料や銃器類のほか、日本一といわれる高さ1m、長さ2m余りの火吹子が保存されている。

井上家の南東約400mの所に、鉄砲鍛冶であった榎並屋勘左衛門・芝辻理右衛門屋敷跡の碑がある。榎並屋勘左衛門は徳川家の御用鉄砲鍛冶で、初代鉄砲鍛冶年寄の一人として重職をつとめた。また、清右衛門の子芝辻理右衛門は、家康より大筒や銃の納入を命じられ、それにこたえた功績により近隣の高須（現、堺区高須町）の地を賜った。



◀堺鉄砲館▶

堺火縄銃保存会のメンバーが自主的に運営されており、火縄銃伝来の歴史や鍛造方法、中世の自治都市堺の繁栄と千利休とのつながりなどについて詳しい解説が聞ける。また、個人所有の戦国時代・江戸時代の火縄銃が13丁ほど展示されており、実際に触れることができる。

⑩ 水野鍛錬所

「今や昔ながらの鞆（ふいご）を使い、真っ赤に焼けた鋼を鍛え上げるのは、堺でうちだけかもしれません」



そう語るのは、世界に誇る刃物の名産地に明治5年に創業し、日本刀と包丁を鍛え上げる水野鍛錬所4代目の水野康行さん。旧紀州街道の通りに面して立つ店は、外見からは鍛冶屋とは思えない潇洒な雰囲気。しかしショーウィンドー内には「住吉大社御神刀鍛錬、法隆寺国宝修理」などの木札が掲げられ、飾られた昔の大きな刃物が歴史の重みを漂わせている。店内に踏み入れば、プロ用の和包丁から家庭用包丁、はさみやナイフまで各種刃物がズラリ。その研ぎあげられた輝きに圧倒される。

水野鍛錬所は代々その腕が見込まれ、昭和22年の法隆寺大改修の際には、国宝五重塔相輪にある四方魔除け鎌を、法隆寺の境内で、「鍛鉄降魔」の古式を踏まえて鍛えたという歴史を有している。店内で法隆寺五重塔相輪に奉納された四方魔除け鎌と同じ鎌と、法隆寺を解体した時に集められた古釘を鍛え直した古釘も展示されている。この鎌や釘は手軽に持たせてくれ、魔除け体験ができる。

◀大切なお知らせ▶ 「奥出雲の謎に迫る ～神話と鉄の古代出雲探訪よくばりバス旅一泊二日～」

開催日時・集合場所 6月17日（土）～18日（日）旧東大阪市立市民会館前

出発時刻 17日（土）午前7時45分 解散予定時刻 18日（日）午後7時頃

宿泊旅館 亀嵩温泉・玉峰山荘（Tel0854-57-0800 島根県仁多郡奥出雲町亀嵩3609-1）

主な見学先

一日目 出雲歴史博物館、出雲大社（正式参拝）、弥生の森古墳公園博物館、今市大念寺古墳、荒神谷博物館、加茂岩倉遺跡、神原神社

二日目 たたら・刀剣資料館、鉄の歴史博物館、須佐神社、日和山遺跡公園、八重垣神社、和鋼博物館

☆案内解説は当日参加者に配布します。

参加申し込み 振り込み金額は2万5千円です。いつもお世話になっています旅路トラベル社の指定口座に振り込んでください。徴収しました2万5千円については、後日精算します。

振り込みをもって参加者を確定します。参加者名を忘れずに。また、複数で申し込まれるときは関係を恐れ入りますがお願いします

内訳：宿泊代9300円（一泊一食、入湯税）、バス代、高速道路通行料、駐車場代、保険料など
但し、拝観料、玉串料、各昼食代、玉峰山荘の夕食代は各自で負担お願いします。

申込期日 一次申し込み 5月8日～22日 定員27名で締め切ります。

振込先 りそな銀行 瓢箪山支店

普通貯金 No. 0207734

口座名 田口光子（タグチ ミツコ）